第2回 笛吹音楽祭

Fuefuki Music Festival 2008

2008年11月22日(土)～24日(月・祝)
笛吹市 スコレーセンター

主催:笛吹音楽祭運営委員会　共催:(財)いさわ文化・スポーツ振興財団
後援:山梨県／山梨県教育委員会／笛吹市／笛吹市教育委員会
助成:NPO法人山梨メセナ協会(山梨芸術文化支援協会)／新都市設計

CONCERT PROGRAM

アンサンブル コンサート

11/22(土)14:00開演(13:30開場)【ホール】

ヴァイオリン:蜷川いづみ　チェロ:谷口節夫　ピアノ:奥山初枝

ブラームス:チェロ・ソナタ 第一番　ホ短調　Op.38　第一楽章
山田耕筰:「からたちの花」
カザルス:カタロニア民謡「鳥の歌」
クライスラー:「美しきロスマリン」「愛のよろこび」
サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン　Op.20
メンデルスゾーン:ピアノ・トリオ 第一番　ニ短調　Op.49　第一楽章

オーケストラ コンサート

11/24(月・祝)14:00開演(13:30開場)【ホール】

指揮:藤原義章　管弦楽:笛吹音楽祭オーケストラ　独奏チェロ:藤原秀章

ベートーヴェン:交響曲 第3番「英雄」
ハイドン:チェロ協奏曲 第1番
ポッパー:ハンガリー狂詩曲
ブラームス:ハンガリー舞曲 第6番

ロビー コンサート

11/22(土)17:00　**11/23**(日)12:00・17:00　**11/24**(月・祝)13:00【エントランス】

11/24= 琴演奏:窪田礼子　宇佐美延子　今井禮子　三枝陽子　鈴木ゆか

和太鼓演奏

11/24(月・祝)12:00【エントランス前広場】

御坂天雷太鼓・一宮桃源太鼓

ごあいさつ

笛吹市長　荻野 正直

ようこそ「第2回笛吹音楽祭」にお越しくださいました。

昨年誕生した音楽祭が今年も笛吹市スコレーセンターを会場として開催されますことは、誠に喜ばしく、心から歓迎申し上げます。

三日間に及ぶ音楽祭のクライマックスを飾る「オーケストラコンサート」をメインとして、「アンサンブルコンサート」や「ロビーコンサート」、また「琴演奏」、「和太鼓演奏」をお楽しみいただけます。特に、オーケストラにつきましては練習を公開し、さらに「絵画展示」、「ヴァイオリン展示」も行われるなど、今年も音楽を、いつでも気軽に楽しむことができる多彩なプログラムが企画されております。全国から参加いただき演奏される「オーケストラコンサート」は、限られた練習時間でどのように音楽がつくりあげられていくのか、期待感が高まります。

笛吹市では、昨年、新たなまちづくりの指針として第一次総合計画「ふえふき協奏曲第1番」を策定いたしました。「みんなで奏でる“にぎわい・やすらぎ・きらめき”のハーモニー♪」を目指し、市民や事業者、団体などの皆さまの参画と協働による「まちづくり」を進めております。

さて音楽を愛する市民の皆さまが中心となり、行政や各種団体、そして企業やボランティアの皆さまのご協力をいただいて開催する手作りの音楽祭の開幕です。演奏する人と聴く人、この音楽祭を支える人々により、感動の美しいハーモニーが奏でられ、笛吹市いっぱいに広がっていくことを願っております。

音楽監督　藤原 義章

温泉と果実の郷に、技術や年齢、所属演奏団体を超えて全国から音楽家が集まりました。アマチュアはプロに導かれて学び、プロはアマチュアの情熱で初心にかえる貴重な時間です。そのようにしてスコレー（学び遊ぶ）したアンサンブルを、多くの皆さんに聴いていただきます。

ちょうど1年前、この会場で初回の音楽祭が開かれました。市長はじめ笛吹市、スコレーセンターの深いご理解による実施です。まず、「笛吹」の名を受けたフルート・コンサートがオープニングを飾りました。すばらしいこのネーミングは、これからも活かしたいものです。クライマックスは、一期一会のオーケストラ演奏。鑑賞席からの万雷の拍手は、新生音楽祭への祝福として響きました。

今年も山梨と東京の運営スタッフが、それぞれのパーソナリティを発揮した連携で、あの感動を再び味わうべく整えてくれました。

第2回笛吹音楽祭では、「地域や領域にとらわれない交流」のスペースが、さらに広がることでしょう。

演奏曲について

オープニングコンサート

◆ブラームス：チェロ・ソナタ 第一番　ホ短調　Op.38　第一楽章
派手なところはなく、しかし情熱を内に秘めた、噛めば噛むほど味が出てくる音楽というべきでしょうか。重厚壮麗なピアノにともなわれた、低音楽器チェロの朗誦の魅力は格別です。

◆山田耕筰：「からたちの花」
北原白秋の詩に作曲した有名な日本歌曲。山田耕筰（1886-1965）自身がチェロとピアノに編曲したものです。

◆カザルス：カタロニア民謡「鳥の歌」
パブロ・カザルス（1876-1973）がチェロ独奏に編曲したものです。人道主義者で平和活動家のカザルスは、94歳のとき（1971年）国連本会議場で「私の故郷カタロニアの鳥は、ピース！ピース（平和！平和）と鳴くのです」といって、最後に演奏しました。

◆クライスラー：「美しきロスマリン」「愛のよろこび」
フリッツ・クライスラー（1875-1962）は20世紀前半に世界的大活躍したウィーン出身のヴァイオリンの巨匠。ウィーンの雰囲気を湛えたヴァイオリン曲をたくさん書いています。ヴァイオリニストたちが愛奏するワルツ風の小品２曲です。

◆サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン　Op.20
ヴァイオリンといえばツィゴイネルワイゼン、ツィゴイネルワイゼンといえば官能のメロディー、華麗な左手、右手の演奏テクニック、ヴァイオリンの魅力満開の名曲です。作曲者のパブロ・デ・サラサーテ（1844-1908）は19世紀末スペイン出身のヴァイオリンの達人。その技が存分に発揮できるように極めて難しく作られています。劇的な出だし、中間部はその名の通りの哀調の「ツィゴイネルワイゼン＝ジプシーの歌」、最後は激しく急速華麗な音楽で熱狂的に終わります。

◆メンデルスゾーン：ピアノ・トリオ 第一番　ニ短調　Op.49　第一楽章
ピアノ・トリオは、通常ピアノ、ヴァイオリン、チェロで演奏される室内楽をさします。この第一番はメンデルスゾーン（1809-1847）の室内楽の名曲。メロディーは文句無く美しく上品で、しかも情熱にみち、テクニックは輝かしく華麗です。この1曲しか作品を残さなかったとしても、天才音楽家メンデルスゾーンの名は世に知られていたと思われます。

オーケストラコンサート

◆ベートーヴェン：交響曲 第三番　変ホ長調　Op.55　「エロイカ：英雄」
音楽家にとって死刑宣告に等しい聴覚喪失から遺書（ハイリゲンシュタットの遺書）を書かざるを得ないような苦悩から立ち直ったベートーヴェン33歳（1804年）のときの、最も気合の入った作品です。全曲演奏に50分もかかる交響曲第三番「英雄」はその当時破天荒の力作で人々に驚愕を与え、そして200年たった現在も完璧な音楽の力を放射しつづけています。ベートーヴェンは第九交響曲ができあがるまでは、この第三交響曲が自分の最上の作品であると断言していました。譜面には「ある英雄の思い出を祭るために作曲された」と記されていました、この英雄とはナポレオンのことを指すといわれています。第二楽章はこの上なく深刻、悲痛な葬送行進曲となっています。

◆ハイドン：チェロ協奏曲 第一番　ハ長調　Hob.Ⅶb-1
ドイツ古典派の大作曲家ハイドン（1732-1809）はチェロ協奏曲を2曲作曲していますが、こちらはハイドン若い頃の作品。　この第一番は作曲から200年間眠ったままになっていて1961年にプラハで発見され大騒ぎになったものです。生き生きとした活発な音楽で、たちまちチェロ奏者たちが愛奏する名曲になりました。

◆ポッパー：ハンガリー狂詩曲　Op.68
ダーヴィット・ポッパー（1843-1913）はサラサーテと丁度同じ頃活躍していたチェロの名人でチェロのための曲をたくさん作曲しています。この曲はハンガリー風の名前のとおり、チャールダッシュ形式（ジプシー音楽の形式）、すなわち哀調をおびたゆっくりとした部分（ラッサン）と活発、急速な部分（フリシュカ）からできています。ハンガリー民謡をふんだんに取り入れ、チェロの演奏技巧を駆使した親しみやすい音楽です。最後は急速な舞曲で盛り上がって終わります。

◆ブラームス：ハンガリー舞曲　第6番
ブラームス（1833-1897）が20代のころ、友人のハンガリーのヴァイオリン演奏家レーメニイからハンガリーのダンス曲を教えてもらいました。それに興味をもったブラームスはジプシー楽団の演奏する音楽を聞き取って採集し編曲して出版したのが、ピアノ連弾のための「ハンガリー舞曲集」です。当時の爆発的なヒット作となり家庭用音楽として楽譜がいっぱい売れたそうです。オーケストラ編曲もされ、この第6番は第1番、第5番とともにアンコールピースとしてしばしば演奏されます。

大橋 光男

油彩展示　設和 幹

「春の肖像」　F40
「時の外側」　F20
「休日の公園」　F20
「バラの誘惑」　F20
「星に願いを」　F6
「月」　F4
「陽」　F4
「ひととき」　F4
「花」　SM
「人」　SM
「演奏者」（水彩）

設和 幹
山梨県芸術祭賞、造形展、安井賞などで最優秀賞を受賞（1971～ 1974）。滞欧（1977～ 1980）。パリを中心にヨーロッパ各地の展覧会に出品（1971～ 1987）。ニューヨークArt in Soho、ルーブル美術館、イタリア・アートフェスタに招待出品（1998～2007）。日本美術家連盟会員、山梨芸術家協会理事、山人会理事、山梨日仏協会理事、人物画研究会主宰。

ヴァイオリン制作展示　松上 一平

楽器の王様といわれるヴァイオリン。この音楽祭でも室内楽やオーケストラで活躍しています。その製作過程の一部と完成品を展示します。開催中は、どのような質問もお受けします。

松上 一平
山梨県出身。国立音楽院ヴァイオリン製作科卒業。山田聖、望月慎也、金子陽一、森田淳哉に師事。東京都内の工房で、陳宇、三苫由木子に師事。現在、南アルプス市に工房を構える。

演奏家プロフィール

藤原 義章：指揮
東京都響、新日本フィルの首席ヴィオラ奏者を務める。イェール大学、ボストン大学で指揮法を学ぶ。増穂町文化会館音楽監督、韮崎文化ホール館長歴任。著書に「リズムはゆらぐ」「新しいアンサンブル入門」「ヴァイオリンとヴィオラの小百科」「美しい演奏の科学」「音楽の生涯教育」など。

蜷川 いづみ：ヴァイオリン、コンサートミストレス
桐朋学園女子高校を経て桐朋学園大学卒業。同研究科修了。エコール・ノルマル音楽院（パリ）で高等演奏家資格を主席で取得（審査委員賞）。新日本フィル団員を経て東京ユニバーサルフィル管弦楽団コンサートミストレスを務める。現在、ソロ及び室内楽を中心に国内外において活躍。ソロアルバム「泉のほとり」は「レコード芸術」で絶賛される。モーツァルトアンサンブルオーケストラのゲスト・コンサートミストレス。ユーオーディア・アカデミー講師。

福波 典子：ヴァイオリン
武蔵野音楽大学卒業。同大大学院修了。東京フェスティバルオーケストラ・コンサートミストレスを経て、現在フリーランサー。国際会議コンサート、室内楽、オーケストラ、録音などで活躍。長谷川孝一、井上武雄、日高 毅、F. リヒネフスキー、L. グレーラー、G. フェイギンに師事。筑波大学付属盲学校音楽課程講師を経て、武蔵野音楽学園講師。

佐藤 茜：ヴァイオリン
ドイツにて6歳よりヴァイオリンを始める。帰国後、斉藤久美、中山朋子に師事。桐朋学園大学を経て、英国王立音楽院に奨学金を得て留学し、ニコラス・ミラー、ダイアナ・カミングスに師事。音楽院内で多数受賞。現在、「カルテット・カノーロ」「アンサンブル・ロカ」、独奏、オーケストラなどで活躍中。

光行 澄子：ヴィオラ
蔵野武蔵野音楽大学卒業。 東京芸術大学大学院修了。浅妻文樹に師事。渡米、ミルトン・トーマスに師事。帰国後、東京ゾリステン入団。現在はフリーで室内楽、オーケストラで活躍。「アンサンブル・クライス」「ジャパン・シンフォニア」のメンバー。

谷口 節夫：チェロ
東京芸術大学卒業。清水勝雄、堀江 泰、レーヌ・フラショ、青木十良に師事。NHK・FM「午後のリサイタル」に、チェロ・アンサンブル、フルート・トリオで出演。現在、フリーランサーとして室内楽、オーケストラ、弦楽四重奏団「カメラータ・フロイデ」等で活躍中。恵泉女学園非常勤講師。

井上 陽：コントラバス
国立音楽大学卒業。コントラバスを西澤誠治、永島義男、池松 宏の各氏に師事。国立音楽大学オーケストラ演奏員を経て、オーケストラ、室内楽、吹奏楽，古楽器、レコーディングなどで活躍中。

駒井 朗：コントラバス
国立音楽大学卒業。コントラバスを池松宏、村松裕子、溝入敬三の各氏に師事。ゲイリー・カーのサマーキャンプ（カナダ）に参加。ダンカン・マクティアのマスターコース（スイス）を受講。国立音楽大学オーケストラ演奏員。

石井 由紀：オーボエ
東海大学教養学部芸術学科音楽課程卒業。国立音楽大学器楽学科オーボエ専攻卒業。オーボエを広田智之、丸山盛三に師事。現在、フリーランサー。日野美歌、岩男潤子、羽田ユキコのライブやレコーディングに参加するなど、クラシック以外にも活動の場を広げている。

奥山 初枝：ピアノ
桐朋学園芸術短期大学・研究科修了。ピアノを新井 精、林 秀光に師事。和声学を師事した山田 泉の作品演奏により、平成９年山梨県芸術祭最高位・水上財団賞受賞。邦人作品演奏研究会、放送等に出演。多方面でソリスト・合唱団体と共演を重ね、CD制作等に参加している。桐朋学園女子部講師。日本キリスト教団阿佐ヶ谷教会オルガニスト。

藤原 秀章：独奏チェロ
日本ピアノ教育連盟主催第20回ピアノオーディションで奨励賞受賞。第28回ピティナ・ピアノコンペティション・ソロ部門東日本入選。東京ジュニアオーケストラソサエティ首席奏者として『白鳥の湖』の独奏チェロを演奏（05）。泉の森ジュニアチェロコンクール・中学生の部で国際ソロプチミスト奨励賞受賞（08）。山梨県南アルプス市立櫛形中学校２年在学。チェロを桑田歩、ピアノを中村真理、パイプオルガンを平井靖子に師事。

参加者

オーケストラ

指揮
藤原 義章

コンサートマスター
蜷川 いづみ

ヴァイオリン
青木 未央 クリスティーナ
安見 美代子
板倉 良広
大橋 政浩
荻原 日和
小野 和隆
菊地 暁子
小林 瑠美
佐藤 茜
鈴木 美代子
中津川 友子
福波 典子
前畠 良康
松村 昭吾
山本 顕一

ヴィオラ
石川 八谷
小林 晃子
光行 澄子
南 彩子
柳沢 永遠子
柳沢 正芳

チェロ
石田 香
井上 満雄
尾上 敏起
神成 久敏
谷口 節夫
竹内 貴博
内藤 和子
藤原 秀章

コントラバス
井上 陽
駒井 朗
中川 奈美

フルート
大橋 由穂
平井 麻衣子

オーボエ
石井 由紀
高田 伸枝

ファゴット
伊藤 有香里
谷口 愛

クラリネット
杉浦 徹
杉浦 紀子
鈴木 直子
舟茂 万里子

トランペット
駒澤 敏
森山 秀一

ホルン
岩尾 慎介
嵯峨 琢子
中村 ようこ
原田 真理子

ティンパニー
内田 則彦

打楽器
内田 美沙子

ピアノ
奥山 初枝

琴
窪田 礼子
宇佐美 延子
今井 禮子
三枝 陽子
鈴木 ゆか

和太鼓
御坂天雷太鼓
一宮桃源太鼓

展　示

絵画
設和 幹

ヴァイオリン展示
松上 一平

運営委員会

運営委員長　小林 晃子
運営副委員長　鈴木 美代子
運営委員　板倉 良広　大橋 光男　菊地 暁子　窪田 礼子　小池 邦子　鈴木 直子　設和 幹
田中 春美　土屋 雄一　内藤 和子　中川 奈美　中津川 友子　松上 一平　山下 繁

第３回 笛吹音楽祭

2009年11月21日（土）～ 23日（月・祝）
笛吹市　スコレーセンター

オーケストラ指揮：藤原義章
ベートーヴェン：交響曲第５番「運命」ほか